

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

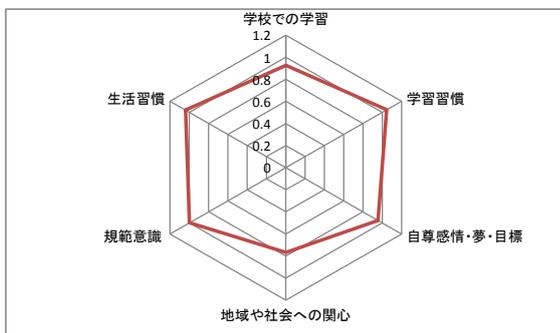
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、特に無回答率においては、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・文脈に即して漢字を正しく書く問題と、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題に対して正答率がかなり高い。	
	努力が必要な問題	・文脈の中における語句の意味を理解する問題で、全国平均を下回るものの誤答率が高い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、無解答率はすべての問題で全国平均より高い。話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する内容や、相手に的確に伝わるように、あらずじを考えて書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・全体と部分との関係に注意して、相手の反応を踏まえながら話す問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題に対して正答率が低い。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、図形や関数の領域に関する基本的事項を理解を問う問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している問題に対して正答率がかなり高い。	
	努力が必要な問題	・折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している問題に対して正答率が低い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・数と式の領域では、全国平均を上回っているものの、関数や資料の活用の領域が全国平均を下回っており、また、無答率も全国平均より高くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題に対して正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する問題に対して正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、主として「知識」「活用」に関する問題、第1分野・2分野ともに課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画する問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘する問題に対して正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で計画を立てて勉強をしている生徒、家で学校の授業の予習・復習をしている生徒は全国平均と比べて低く、学習習慣に課題が見られる。 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国平均と比べて低く、それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけることができるようなキャリア教育の推進が必要である。 ・本校では、各教科の授業の中で、本時の「めあて」を板書で示す等、「ねらい」を明確にする導入段階づくり、「振り返り」と「まとめ」で生徒に学習内容を理解させる授業を終末段階でしっかりと取り組んでおり、今後とも「わかる授業」づくりに取り組んでいく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・自分の考えを言葉や文章で表現することや感想文や説明文を書くことが苦手だと感じている生徒が多い。自分の考えをまとめて述べる活動、相手の意見を聞く活動(資料やデータ等を基に説明する話し合い活動など)を積極的に授業に取り入れていく。また、タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用した授業を実践し、生徒の学力向上のための一助とする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図るとともに、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・指導を行う。全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭・小中学校が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。